

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと併せてご活用ください。

～国の特別会計の実情、来年の消費動向を見る上で注意が必要なるう年要因を解説します。

2011/2/17 「財源捻出の余地が少ない特別会計 ～基礎的財政収支の改善には増税策の検討が必要～」

2011/2/14 「うるう年と個人消費 ～2012年1-3月期の個人消費が見かけ上押し上げられる可能性あり～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

2010/3/14 「Market Watching Weekly Market Report」(毎週月曜日配信)

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～日本国債の格付け見直し機運が迫る財政再建、経済統計を使って寄付の実態を分析します。

2011/3/1 「タイガーマスクは誰だったのか ～総務省『家計調査』の分析から分かる寄付者の正体～」

2011/2/23 「財政運営不安と格下げ懸念 ～ムーディーズのアウトルック見直し～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～成長率のイメージを歪め、政策決定にも影響を及ぼしかねない「ゲタ」に関する提言です。

2011/2/24 「景気判断を惑わす成長率の『ゲタ』 ～求められる『年度間成長率』の公表～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～米国経済ほか、ユーロの舵取り役をめぐる欧州事情、成長続くアジアについて解説しています。

2011/2/15 「欧州 続報・ECB総裁人事 ～ドイツの候補擁立とフランスの支持の行方が鍵を握る～」

2011/2/23 「タイ経済事情：昨年の経済成長率は15年ぶりの高水準 ～先行きも外需をけん引役に景気は底堅さが見込まれる～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、西濱徹の「アジア・新興諸国経済」

編集後記

産業ごとに分類された経済統計を過去にさかのぼると、第三次産業の内訳が時を追って大きく変わってきたことに気がつく。日本標準産業分類が設定された1949年は農林漁業、鉱業などの第一次産業就業者が最も多く、第三次産業の大分類は金融保険ほか卸小売、不動産、運輸通信、サービスなどに分かれていたに過ぎない。それが今では情報通信業、医療・福祉、教育・学習支援業など十数業種に区分されている。それでも就業者数と付加価値額がいずれも四分の三以上を占める非製造業の中心部をとらえるには不十分かもしれない。日本経済の姿を正確につかむにあたって、これら分野のデータ不足がネックだともいわれてきた。

このサービス分野について、総務省が公表する国際労働機関のデータをもとに計算してみると、日本は欧米に比べて、行政や教育などいくつかの業種で女性就業者の比率がかなり低い。逆に製造業、農業、建設業などの業種では高めであるという特色も見える。就業者数のようなシンプルな統計で日本経済を読み解くやり方も、課題を発見する近道かもしれない。(H. U)